

図書館利用者と春日町図書館長との懇談会

- 1 日時 令和元年 11 月 2 日（土） 14 時～15 時半
- 2 場所 春日町図書館 2 階 会議室
- 3 出席者 利用者 15名
図書館 3名
(春日町図書館長、副業務責任者 2名)
- 4 テーマ 「私が期待する春日町図書館のサービスとは」
- 5 配付資料 (1) 教育要覧（図書館の所蔵資料数、利用状況）
(2) 主な春日町図書館事業 30～元年度
(3) 練馬区立図書館ビジョン概要版
(3) 春日町通信（11月号）
(3) feel me（9月号）
- 5 次第 (1) 春日町図書館長挨拶
(2) 図書館職員紹介
(3) 図書館概要説明
(4) 懇談
(5) 春日町図書館長挨拶

図書館利用者と春日町図書館長との懇談会 会議録

1 春日町図書館長挨拶

皆様こんにちは。本日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。

春日町図書館の館長を務めております。田村と申します。これまでも、利用者の皆様を始め、ボランティアの皆様、地域の皆様に支えていただきながら、より一層地域に根差した図書館を目指し取り組んでまいりました。また、これからも多くの方に、気持ちよくご利用いただけるような図書館をつくっていきたくと思っております。

今回、この懇談会を通じ、皆様のご意見を参考にして、春日町図書館を改善・発展させていきたいと考えております。直接ご意見を伺える今回のような機会は少ないので、ぜひ、和やかな雰囲気の中、色々なお話が伺えたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、今回の懇談会ですが、お時間を 15 時半までとさせていただき、「私が期待する、春日町図書館のサービスとは」というテーマで進めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。また、館独自で答えられないような、例えば図書館システムに関わることや区立図書館全体に関することについては、お答えできない場合があります。その際は、光が丘図書館にその内容を伝え、後日、光が丘図書館と調整の上ホームページで回答させていただく予定です。また、宜しければ 11 月 9 日（土）に行われます、光が丘図書館での懇談会にご参加ください。そちらで質問をしていただければ、適宜回答があると思います。

なお、今回の内容については、質疑等の記録を残して、ホームページ等に掲載するため、録音をさせていただきます。あわせてご了解ください。

2 図書館職員紹介

副業務責任者

3 事業紹介等

- (1) 教育要覧抜粋の図書館の所蔵資料数、利用状況の紹介
所蔵資料数、利用状況等
個人貸出点数 約48万4千点、個人貸出予約点数 約12万8千点
対面朗読の利用時間数 462時間 会議室の利用件数 330件
ギャラリー利用日数 55日
- (2) 30年度から元年度の主な春日町図書館事業について
 - ・夜間開館を活かした事業
 - ・地域、他館との連携事業
 - ・練馬区との連携事業
 - ・各種講座、読書支援事業
 - ・ボランティアとの連携事業
 - ・その他子供向け事業
 - ・情報発信
 - ・学校支援モデル事業

4 懇談

利用者

ねりま若者サポートステーションは、就労の前段階の職場体験やボランティアという形で、もう3年ほど経験を積む場として使わせていただいています。図書館の館長さんやスタッフさんから「おつかれさま」「ありがとう」と声掛けをいただいて、若者たちは自信を付けたり、こういう仕事もあるんだなと感じていると思います。15歳から39歳までの方を支援対象としていますが、いわゆる引きこもりのような方の中にはいらっしゃいます。本当に層が広がっているような方がいらっしゃるんです。図書館の仕事に興味がある方も、就活の一環のような感じで使われる方も、ねりま若者サポートステーションに来るまでは家族としか全然話していない、コンビニにも行っていないという段階の人もいたりします。そういったかなり広い範囲の方々に対してあまり細かく否定することなく、多くの若者に経験を積ませてもらっています。この間もメンズの読み聞かせイベントがあった時に、誰かいい若者がいたらどうかとお話をいただいて、「読み聞かせは結構レベル高いよね」って話していたんですけど、一人やってみたっていう人がいましたのでお願いしました。お互いにとってプラスが生

まれるようなことってどんなことがあるかなと、図書館と一緒に考えて作ってきた形が今の形なのかなと思っています。引き続き何をしていけるのか。こういう場所で図書館を通じて他の方ともつながりが増えていったら嬉しい。図書館が人と出会う場所という風に考えるとそれも図書館の一つの在り方じゃないかと思いますので、我々も一緒に図書館づくりとかまちづくりとか、そういうところに関わっていただけたらと思っています。

図書館 ねりま若者サポートステーションとは5年くらい前から一緒にやらせていただいています。ねりま若者サポートステーションの利用者だった方が今、春日町図書館でスタッフとして働いているというご縁もありまして、事業やボランティアにご協力いただき、本当に助かっています。ありがとうございます。今後もお願ひいたします。

利用者 図書館の利用形態もある意味でフリーですね。我々も青少年館ということで対象は青少年の方々なんですけど、フリーのところも多々あります。自由な雰囲気の中で施設を利用していただくという点は共通しているかなと思います。施設の中で大きな事業があれば、お互いに出向いたり依頼したり、ご協力する連携も出てくるかなと。図書館を利用されている方々の利益になるような仕組み、我々の青少年館を利用する方々への還元できるもの、そういったものを今後また模索しながら、一緒にやっていきたいと思っています。引き続き館長さんともお話をさせていただいて、青少年の健全な育成のための努力をこれからもしていきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

図書館 青少年館は本当にすぐ近くですので、いろいろと連携をしています。夜の音楽会の和太鼓イベントや子ども向け人形劇開催時には大きいレクリエーションホールを使わせていただきました。また、空調が壊れた時はストーブも貸していただきました。いつも急なお願ひを聞いていただき、本当にお世話になっております。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

利用者 結構新しい建物のように見えるのですが、館長の話だと施設の老朽化が始まっているということですが、どういうところでしょうか。

図書館 開館から23年ほど経ち、特に空調に関しましてはどこかしら毎年不具合が出ております。11月の第2月曜日に暖房への切り替えですけれども、うまく機能するかどうか今からひやひやしています。また暖房器具をお借りするかもしれません。よろしくお願ひします。

利用者 我々の施設は去年の夏に空調が止まりまして、もう暑くて建物を閉めるという話にもなりました。今年はなんとか乗り切ったんですけども、いつ止まるかひやひやしている状態です。その辺は予算の話もあり、我々の力だけではどうしようもないところもありますので、それはどこの施設にも共通する内容なのではないかと。リサイクルセンターは、ゴミの減量やリサイクルの普及啓発が主な

仕事です。基本的にどこの施設でもそうなんですけれども、認知度を上げることが主なミッションになっております。ただ、リサイクルセンターを知らない人はたくさんいると思います。まず何をやっているところなのか分からない。「ゴミの回収をしているんですか」という電話が毎日かかってきます。ゴミの回収はしていません。それは資源循環センターという別のセンターになります。こちらはあくまでも普及啓発をして区民の皆様にゴミの減量、リサイクルについて知ってもらおうという施設になっております。その点図書館さんはどんな施設なのか知らない人はいないだろうと思うんですね。ちょっとうらやましいなというのは正直あります。ただその分、また別の問題があるかと思えます。知らない人がいないといって利用者が来るわけでもなく、知っている分堅いイメージがあったりして、なかなか来られるのを敬遠する方もいるんじゃないかと、悩みとしては想像できます。そのイメージをどうするかということで、いろいろな事業や広報をされているんだなど。ご苦労されていると分かって、面白くというのも変なんですけれども、非常に勉強になるなと思っておりました。建物の中にいるだけではなく外に出て行って、宣伝もかねて地域の他の施設と一緒に事業をすることはお金をかけずにやれて非常にいい点だと思います。ロコミは本当に重要になっております。例えば保育園に行っている子どもとお母さんが「あそこよかったよ」と言うと利用者がすごく増えたりするんですね。どうしたんだろうと、利用者に話を聞いてみたところ、保育園や幼稚園で話題になったということが今まで多々ありました。今の時代そういうことが求められるのではないかなと思っておられます。今後どんどんコラボをして、いろいろなところでご協力していただければと思っております。よろしく願いいたします。

図書館 リサイクルセンターは同じ春日町の近隣施設ということで、いつか共同で事業をしたいと思っております。今年初めて春日町図書館で工作会をやっていただき、またこちらからもリサイクルセンターまつりに伺うことになりました。今後もどんどん一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

利用者 利用状況のデータを見せていただいたんですけど、稲荷山図書館さんは昆虫標本等も貸し出ししているんですか。

図書館 はい。稲荷山図書館は虫を飼っている唯一の図書館という特徴がありまして、昆虫関連の資料をたくさん所蔵しています。

利用者 私たちはご高齢者の方というんな制度をうまく利用して高齢期を元気に乗り越えていこうとしております。実は要介護1から5の認定を持っている方には、申請が必要ではあるんですが、図書館の資料、本等を郵送で家に送ってくれるサービスがあります。どんな年齢・状態になっても、本が読みたいということを願えば本が読めるというのはすばらしいことです。いろんなケアマネージャーさ

んともお話をする機会が多いので、何かそういうことをしたいな、ちょっと手伝いが欲しいなという時に一つの資源として図書館をご案内させていただければとても良いかなという風に思います。ケアプランという、その人の目標のようなものを一緒に立てた紙を利用者様に交付するんですが、春日町図書館は駅前のランドマーク的なところにありますので、中には図書館に行くなんて目標を立てて、引きこもりを防いだりするプランを立てている方もいらっしゃいます。以前ケアマネージャーをやっていた時、朝のドラマで『花子とアン』というのがあったのですが、英語が得意な利用者の方が頑張って『赤毛のアン』を英語で読むとおっしゃっていたんですよ。ただ、すごい分厚い本みたいで、1か月に1度くらい訪問していたんですけど、毎回借りているんですよ。「なかなか読み終わらないですね」なんて言ったら、「この本が分厚いから、これ持って歩くのがリハビリで良い」と言っていたんですけど。図書館ってやっぱり、知らない方がほぼいないというところでもありますので、いろんなランドマークではないですけど、そういったことでも利用できればいいなという風に思っていますし、いろんなところで図書館さんのご案内もさせていただければと思っています。

利用者

高齢者の集いの場所というものが必要で、独居の方などみなさんを巻き込んでどんどん町に出てきていただきたい。その場所を作るのが私の仕事だなんてお話をちょっとさせていただきました。気軽に参加していただくということは重要です。私たちは今、高齢者の方たちがご利用する機会が多いと言われているコンビニエンスストアや薬局を拠点として、その団体様と共に何かできることはないかと考えています。ここに来ればちょっとお話ができる、気軽に来ると誰かがいる、というような場所にしてみようという取り組みが今年度から練馬区の方で始まっています。出張型街かどケアカフェ事業。これは、もともと私たちが取り組んできたいろんな会場での体操教室、認知症の講座、勉強会等に加えまして、今までよりもみなさんのお近くにあるところを拠点としましょうというものです。高齢者の中には元気な方も当然いっぱいいます。お散歩のコースに図書館に行くということを目標に掲げて、毎日頑張って歩いて来る方もいっぱいいると思うんですね。図書館もみなさんの一つの拠点として、多く広く共に集える場所となるよう私はすごく期待しているところなんです。あともう一つ、毎日のように足しげく通ってくる高齢者の方にはちょっとした変化というものもあるかと思うんです。足を引きずっているとか、前より着衣が乱れているとか、毎日来ているからこそ気付くことが図書館の方にはあるかもしれません。そういったところから情報をいただいたり、私たちが発信するということも含めて大きなパイプ作りをしていきたいなと考えています。また、高齢者の方たちを見守る組織をみなさんで作りましょうということで、年に2回、町会の方、民生委員の方、コンビニエンスストアの方、配食センターの方、いろんな地域の方

たちをお呼びして地域ケアセンター会議というものを開催しています。10月31日に春日町地域集会所の方で開催したのですが、40名ほど来ていただきました。地域にいらっしゃる高齢者の方たちが、安全に安心して暮らしていける環境作りをしていくにはどうすれば良いのか。今回は認知症をテーマに、医師をお招きしてみなさんと共に学びました。これからも地域の方たちやいろんな団体の方と顔の見える関係を作っていきたいなという思いでおります。よろしく願いいたします。

図書館 地域包括センターとは、図書館での認知症講座や認知症への理解を深めるプログラム「ニンプロ」の研修でお世話になりました。それまでは私も勉強不足で、地域包括センターの内容をよく分かっていませんでした。図書館はいろんな方が来館されるので、どこに相談していいのかわからないという出来事も多いのですが、最近では地域包括センターにご相談し、課題解決していただいております。図書館は本来の図書を整理し、収納保管、利用者に館内閲覧や貸出の提供という役割の他に最近では交流の場というような考えも広まっております。ただ本を貸すだけではなく、そこに集う人たちのコミュニティ形成のような役割も図書館には必要だと思っております。最近ではお年寄りの利用者もすごく増えていると感じています。そういった面で起こりうる情報提供も地域包括センターにできたら、相互にとっても良いのかなと思っております。あとは、子育て支援にも力を入れていきたいと考えていまして、例えばブックスタート等で集まってきたお母さんたちは最初緊張した感じであることが多いのですが、ボランティアさんとお話したり、子育て相談したりするうちにだんだん笑顔になってきて、最後はみなさんととても楽しかったと帰られます。そういう場を図書館が提供していく、世代を問わずコミュニティを作っていくというのもすごく大切だと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

利用者 主な春日町図書館事業30年から元年度というプリントの中にケアセンターでのおはなし会、南地区区民館びよびよ出張おはなし会、保育園への出張おはなし会とあるんですけども、これは図書館の方から積極的にお声をかけているのか、依頼があった時に行っているというものなのか、またどんな様子で実施されているのかを教えていただけたら嬉しいです。

図書館 ケアセンターでのおはなし会は、図書館近隣の春日町ケアセンターというデイサービス等を行う施設で実施しました。「出張おはなし会をやっているのですがどうですか」と私からお声がけをしたのが始まりです。ケアセンターでも色々なプログラムがある中、職員さんも外部の人に来てもらいたいというのはご希望としてありましたので、行くことになりました。相手が大人の方なので、普段の子ども向けおはなし会とは違い、練馬の昔話ですとか大人向けの紙芝居、脳の活性化に良いという早口言葉をやったりしています。春日町南地区区民館びよ

ぴよ出張おはなし会は最初どちらから声をかけたのか覚えていないのですが、初めて行った時、職員さんからも参加した方からも大変喜んでいただいたので、年に2回は定期的に伺っています。内容としては、図書館でやっている通常おはなし会の少し赤ちゃん向けバージョンです。保育園への出張おはなし会は、隣の第三保育園にて実施しております。こちらからお声がけさせていただいて始めた事業です。保育園では0歳児、1歳児などと年齢が分かれているので、その年代にあったおはなしや手遊びをしております。

利用者 絵本は持っていかれるのですか。

図書館 はい、そうです。

利用者 わかりました。ありがとうございます。

利用者 ねりま地域文庫読書サークル連絡会50周年を記念して、1月7日から19日まで春日町図書館のギャラリーでパネル展示をさせていただきます。これは練馬区立図書館が協力ということで、各館には展示なども含めて色々ご協力いただいております。文庫と図書館というのは、50年前から本当に長い歴史、協力関係があります。練馬区には今、12館1分室図書館があるんですけども、50年前というのはまだ練馬図書館しかなかった時代です。その頃はまだ児童室とか児童コーナーもなく、子どもはあんまり図書館に入れないとかそういうような時代だったそうです。『よんでみようこんなほん』というリストを図書館の職員の方と作っていますが、それは児童担当の方と50年間一緒に子どもの本の勉強会をしてきた中で作っているという流れがあります。50年間の歴史のパネルを作るために今、色々資料を掘り起こして作業しているのですが、やっぱりどんどん図書館も変化しているんだなと感じました。練馬区でブックスタートが始まった頃は、赤ちゃんを連れて図書館に来ることにやっぱり気を使っていたと思うんですけども、赤ちゃん連れでどうぞって図書館が開いてくれて。それで親子連れの方たちがずいぶん多くなったなあと感じています。ここ数年、区の他の施設と図書館との連携が多くなってきていて、地域と共に歩む図書館というのはすごく大きいなと。他の図書館の懇談会に出たときも、高齢の方とかが散歩の途中で図書館があってくれてよかったと言っていました。本当に自分の生活の一部として図書館を使っている、赤ちゃんから高齢者の方まで町のいろんな人の居場所になっているんだなというのをすごく感じました。50年の間にどんどん図書館は変化しているのですけれども、いい感じで発展しているのかなと今、感じているところです。

利用者 地域との連携事業として、春日町祭りでお店を出すとのことで当日行ったんですけど、全部は見られなかったのでもんな様子だったか聞かせてほしいです。あともう1点、昨年出席した時に駐輪場の車輪ガイドが使いづらいということを申しました。費用の問題もあつてなかなかとお話されていたと思うのですが、

それに関して同じような車輪ガイドを使っているマンションに住んでいる方から、「ちょっと器具を付ければ使いやすいよ」ということを聞いたので、お話ししてみようかなと思いました。まず、春日町祭りに関してはいかがでしたか。

図書館

春日町祭りは、参加させていただいてから今年でもう4回目くらいになります。今年も大型絵本や紙芝居、春日町の図書館のキャラクターである春日まちこの大きいぬりえを持って行って、多くの子どもたちに参加していただきました。ちょうど読み聞かせをする時に体育館の方で合唱をやっていたり、他のところでも割と大きい音がするので、その辺がちょっとなんていう話も聞いてますが、参加されるお子さんみんな喜ばれているということなので、また来年も引き続き参加させていただく予定です。

利用者

おはなし会開始の時間が書いてあったのを見て10時の回に間に合うように行ったんですけど、まだ祭り自体が始まったばかりだったので、参加者の人は他のブースや体育館の音楽会に行ったりして、おはなし会のテントの方に来る方はほとんどいなかったと思うんですね。音楽会を聴いてから、どんな具合かなと思ってテントの方に行ってみたら、ぬりえをしている子どもたちが何人かいたので安心したんですけど。お天気も朝は曇っていて肌寒かったのですが、昼頃には晴れてきて来場者も多くなってきていたから、時間をもうちょっと工夫なさったらいいんじゃないかなと思いました。

図書館

分かりました。ありがとうございます。図書館といえば絵本の読み聞かせという感じですが、内容を試行錯誤していろんなことを試しつつ、開催時間も検討していきたいと思います。ありがとうございました。

利用者

あと駐輪場の話なんですけど、同じような車輪ガイドがあるマンションでは、足で踏むような金具を付けてあるので、動くのを防ぐことができ、車輪がスムーズに入れられると言っていました。

図書館

今あるものに何か付けるということでしょうか。

利用者

そうですね。今図書館に設置しているものと同じタイプで、そばに足で踏むような金具を付けてあるそうなんです。そういうマンションに住んでいる方がいて、教えてくれたんですね。値段や設置するために図書館の駐輪場を長期間にわたって閉鎖しなくてはいけないということであれば無理かもしれないんですけど、そういうことを聞きましたので、情報としてお話ししたいと思って今日来ました。

図書館

後ほど詳しく聞かせていただけますでしょうか。

利用者

私は伝え聞いただけなので、ではもう少し詳しく聞いておきます。

図書館

ありがとうございます。

利用者

学校支援モデル事業として学校図書館に支援員が派遣されていますよね。研修はどのような風に行われているのか伺いたいです。あと、個人的にはすごく事業

が多いですね。私たちも学校を考える会とかかわらべ歌の会とかで、春日町図書館の会議室をお借りすることが多いのですが、なかなか使えなくて。ここでやるとすごくたくさんの方が集まってくださるのですが、今回ももういっぱいでした。事業で会議室を使う利用率っていうのはものすごく高いのですか。

図書館 まず学校支援の研修についてなんですけれども、学校支援員に対しても毎年研修を実施しています。会社の方で講師を呼んで行う研修の他にブックトークの研修、修理研修など行っております。会議室は先ほどの資料から見ても分かる通り、春日町図書館の会議室の利用数というのはダントツです。毎月1日の朝、2か月先の会議室の受付を一斉にするのですが、毎回団体さんが並んで手続きをしています。その後も問い合わせがあり、どんどん埋まっていく状態です。図書館で会議室を使う事業もありますが、ほぼ一般の団体利用で使われています。

利用者 図書館事業としての利用がすごく多いっていう訳ではないと。

図書館 定例のおはなし会やブックスタートで使っている他に図書館事業として会議室を使うこともあります。それよりも一般団体の方の利用がものすごく多いです。例えば近隣マンションの理事会をしたいなど、そういうものも入ってきますので。

利用者 あともう一つ選書の事なんですけど、児童書をよく利用するんですけども、オーソドックスな本が少ない感じがするんです。こちらよりも光が丘の選書の方が多いのでしょうか。

図書館 そうですね。光が丘図書館が6割です。

利用者 春日町が4割って形。

図書館 選書に関しては児童担当が話し合いをして、毎月の購入を決めています。

利用者 それで、毎月購入しているということですね。

図書館 そうです。

利用者 割と一般的な14ひきのシリーズありますよね。利用が多いせいかもしれませんが、借り出されていることが多かったりして、シリーズが意外と欠けている印象です。特に幼児の本は、複数冊あると嬉しいなど。あとこの間初めて知ったんですけども、おはなしのへやのところにオーソドックスな本がいっぱい並んだブックトラックがありました。もしかしてあれが閉架書架なんですか。

図書館 書架にブックトラックで置いてありましたでしょうか。

利用者 書架じゃなくて、廊下のところですよ。おはなしのへやの前です。

図書館 いつも置いてある黄色のブックトラックですか。

利用者 あれはいつもありますか。

図書館 そうなんです。いつもおはなし会の時には靴置き場とするため、ちょっとずらしているんです。あちらは閉架書架ではなく、31センチ以上の外国の絵本置き場となっております。

利用者 わかりました。普通の書架にはないのにそちらのブックトラックにあるというのは、本を探していて選びにくいといえますか、どうしてそういう風になっているのですか。

図書館 以前はおはなしのへやの棚の上に全部乗せていましたが、地震があった時に落ちてくる可能性や安全管理等の面から棚上に置くのをやめ、ブックトラックを購入いたしました。普段は鎖でくくってあります。

利用者 そうでしたか。その辺のところがよく理解できていなくて。わかりました。ありがとうございます。

利用者 事業の一覧を見まして、本当にたくさんの事業されているんだなということ、地域の施設とのコラボがとても多いなと感じました。先ほど館長さんが春日町図書館の来館者がだいたい日に1,200人っておっしゃったと思うんですけども、これはどういう風にカウントしているのでしょうか。

図書館 自動ドアのそばにカウントする機械がありまして、それで来館者数を把握しています。

利用者 会議室だけの利用者は、その人数に入っていないのですか。

図書館 そうですね。会議室だけの利用の方はカウントに入っていません。

利用者 そうすると約1,200で計算すると36万人、40万弱の利用だと思うんですけど、貸出数が50万なんですね。館内で読む方も多いのかもしれませんが、貸出の数としては少ないなとすごく思います。たくさんの事業があるとは思いますが、図書館のコミュニティの場としては、イベントではなくて、そこから本を借りて読んでくれるというのが本来のものじゃないのかなという感触は得ました。ブックスタートから始めて、幼児向け、子ども向け、大人向けという形でやっていって、おはなしを聞いてもらったことをきっかけに本を借りて読んでもらいたいという思いがあります。イベントに参加して楽しいというのも良いのですが、最終的に本を読んでもらうというところにつながるものに重点してもらえたら嬉しいな、それが本来の姿ではないかというのはすごく感じました。できれば私たちともそういう形で協力して盛り上げて、発展していけたら良いのではないかと思います。

図書館 図書館を使っていただく目的としては、本を借りて読んでいただくということもとても大きいです。借りずに館内で読んでいらっしゃる方も図書館の蔵書を利用しているということにつながっていると思いますので、読書支援として毎月の展示ですとかおはなし会の後のミニブックトークといった積み重ねをして、貸出冊数を増やしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

利用者 私は区立の図書館3館に参加しておはなしをしています。1館は月に1度、もう1館は月に2度、ここは毎週です。もともと春日町図書館が無い時には、青少

年館の図書室で毎週おはなし会をしていて、それをそっくりこちらに移動してきました。他の図書館は今、毎週やっているところは少なく、ここは毎週開催しているというのがすごく強みだと思っています。子どももたくさん来てくれて、私はそれがとても良いなあと思っています。

図書館 スタンプカードを始めてから、より多くの子どもたちが来るようになりました。みんなこのスタンプカードのメダルを下げて、シールをもらいに来る。おはなしを聞かないとシールはもらえないので、いい子におはなしを聞いているんですけども、この効果はすごいと思っています。スタンプをすべて集めたらプレゼントをあげるのですが、こちらが作るのが間に合わないくらいどんどん達成する子が出てきています。引き続きスタンプカードをやっていきたくと思っていますので、よろしく願いいたします。

利用者 スタンプカードがもらえるのは3歳以上でしたか。

図書館 はい。3歳以上です。

利用者 それの効果かどうか分からないですが、おはなし会への3歳以下の参加が減ったような気がします。それで、余計おはなしを聞く環境が整っているかなという気もします。スタンプをもらうためだけじゃなくて、逆のそういう効果も私は感じています。

利用者 まず、図書館を知らない人がいないという発言がありましたが、ブックスタートやっていると最近の若いお父さん、お母さんの中には子どもが生まれてブックスタートをやるから初めて図書館に来たという人が結構います。無料で貸してくれるんですかという質問を受けたりして、びっくりすることもあります。今はデジタル図書もあるのでなかなか難しいかもしれませんが、親子で図書館に来て紙ベースの本にふれて、面白いなと感じられるイベントが定期的にできたら良いなと思っています。乳幼児は自分で本を選べませんので、お父さん、お母さんの力が大きいです。ですので、そういうきっかけになるようなアピール方法が何かあればと思います。

あと、選書に関してです。最近いろんな絵本が出ていてそれはとても良いと思いますが、コンピューターグラフィックを使ったような絵本が春日町図書館は多い気がします。画家さんが描いたような絵を子どもたちに見てもらいたい。オーソドックスな、派手ではないけれども読み継がれている良い絵本というのも子どもの手に届くところに置いていただきたいと思います。

利用者 僕は2点あります。若干テーマとずれてしまうかもしれないんですけど、図書館員の待遇改善について、館長はどういったご意見がありますか。答えづらいとは思いますが、内部ではどういう話になっているのでしょうか。大変なんじゃないかと個人的には思います。その中でサービスをと言われても十分頑張っているという風に僕は思うんですよ。実際待遇面については何か対策とかあつ

たりするのでしょうか。

図書館 会社の方針と体制に従っています。ただ、図書館で働いている人は、やはり図書館が好きで、本が好きで、人と関わることが好きでというのが一番大きいと思います。図書館の仕事に対して真摯に向き合って、スタッフみんなで頑張ろうという気持ちでやっているのは私もすごく感じています。

利用者 すみません、答えづらいことで。もう1点だけ、今日の懇談会のことでもあるんですけども、実際の一般利用者の方の苦情を読みたいと思いました。図書館側にはああしてくれ、こうしてくれっていう苦情や要望が上がってきていると思うんです。この懇談会は深く図書館に関わっている方が多いので、もう少し利用者目線でこういう意見が出ているんだっていうことを僕はこの懇談会で知りたかったです。それがサービスっていうことになるかは微妙なんですけど、それを知りたいというのが要望です。

図書館 利用者さんからの要望は本当にいろんなことがあります。カウンターで話をされたり、ご意見箱や区長への手紙に投函されることもあります。施設面のこと、他の利用者さんのマナー、職員の接遇ですとかいろいろなご意見をいただいています。

利用者 もし可能であれば、読んでみたいと個人的には思っています。

利用者 具体的にどういう意見・要望があるというのは、春日町図書館に特化したものであれば、個人情報にかからない内容でお披露目してもいいような感じがします。こういう考えがあるよねって余計それでやり取りできる感じがするんですよ。また、スーパーでも貼り出している苦情に対する返答のように、可視化できると嬉しいなと思いました。

図書館 少し前のことになりますが、トイレに設置してある水石鹸入れが壊れていた時期がありました。ポンプ式のものを買って置いていたのですが、それがちょっと遠くにあって子どもが使いづらいんじゃないかという意見がありました。あとは、書架で物を食べている人がいるけれども注意はしないんですかとか、そういうご意見です。

利用者 今の話はレファレンスの話なんです。レファレンスサービスがどんな風に展開されているか、利用者からどういうレファレンスのサービスを要求されているかっていう。以前は、練馬の図書館の中でどんなレファレンスが寄せられているか、司書が答えられなくて東京都の中央図書館あるいは国立国会図書館に問い合わせしたとか、そういうことも含めて図書館の年間の報告の中にあっただけです。直営の時代は、図書館の司書が盛んに申し込んで、春日町が中心となってレファレンスの展開をしていました。二十数年前に、図書館のサービスの中でレファレンスが一番大きなポイントだということをここで習いました。ただの貸本屋じゃないよ、そういう時代じゃないっていうのを。ただ、それから20年経っ

でも練馬は全然進んでいない。この会社はV I A Xですよ。今、練馬でV I A Xはいくつ持っているのですか。

図書館 稲荷山と春日町の2館です。

利用者 11月の12、13、14日の3日間、横浜で全国図書館総合展がありますよね。もう20年続いている。私は5年連続で行っているが、練馬からはほとんど参加していない。全国の図書館の動向が分かり、図書館の職員が集まって勉強会をやるわけです。新しいメーカーのサービスも展示しているし、カンファレンスが3日間で80項目くらいあります。それをどれだけ選択して、一人の体だけで行けるか。行きようがないから、利用者の立場、職員の司書としての立場、あるいは学校図書館のサービスの興味のある人たち、そういう役割に分けて練馬も参加すべきだということです。いかに日本の図書館が遅れているか話を聞き、刺激を受けて、どうことができるのか考える。私は子どもの頃、図書館なんてない時代でした。そういう時代を味わっている人間からすれば、十分良くなっているという風に思えるかもしれないけれど、そうじゃなくて、図書館が社会教育としての牽引者、担い手という立場から見たらまだまだやることもたくさんある。場所が狭すぎる、ちっちゃすぎる、遠すぎるということをなんとか克服して、次の世代の練馬づくりをやっていくには、図書館の充実っていうのはなんたって必要。今の日本の区議長さんの中には新しい図書館を目指す動きがあります。図書館フェアの中でもその発表会は必ず出てくる。V I A Xは東京都で相当図書館の指定管理を持っているわけですよ。そういう意味でますます頑張ってくださいたい。2年ほど前、ソーシャルイノベーションというものを提唱したのはV I A Xですよ。それで、春日町図書館でソーシャルイノベーションをどういう形でやるんですかというのを問いかけてまだ答えをいただけていません。

図書館 人々のニーズに合ったものでないと図書館から発信できないと思いますし、利用者の方の意見を吸い上げてやっていくことが社会改革にもつながっていくと考えています。ただ、指定管理の中でできることも限られておりますので、その辺もいろいろ考えながらやっていきたいと思っております。最近では年配の方も多くいらっしゃって、シニア向けの事業をするとかなりの数の方にご参加いただいています。事業自体を企画運営していただく仕組みを考えて、シニア世代の方も活躍していただける場、そういうものも今後提供していけたらと思っています。

5 春日町図書館長挨拶

本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。利用者アンケート並びに、本日頂いたご意見を踏まえ、春日町図書館の運営、サービス向上に努めていきたいと思っておりますので今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。